

【R4-E3】

## 顎顔面手術における治療の予後に関する研究

### 1. 研究の対象

2010年4月から2022年4月までに大阪大学 歯学部附属病院 口腔外科1〈制御系〉および口唇裂・口蓋裂・口腔顔面育成治療センターにて顎顔面領域の手術を受けた方

### 2. 研究目的・方法

#### ＜研究の目的＞

私たちは、口唇裂・口蓋裂や顎変形症などによって顔や顎（あご）の形に不調和を訴える患者さんに対して外科手術をおこなっています。そして、多くの手術材料や治療機器の発達とともに、手術の質を高めてゆく努力を日常的に行っています。

今日の目覚ましい治療技術の発達には1人の優秀な術者の感覚や感性のみではなく、多くは過去の治療から発見された科学的根拠とその利用によって成立しています。私たちは『過去の手術の術式・材料や形態異常の種類など』が『治療の成績（予後）』へどのように関係するのかについて、普段の診療から得られた情報を最新技術を使って再検討し、治療成績の向上へとつながる科学的根拠を見つけ出そうとしています。

この研究の目的は、顎顔面手術によって得られた画像情報や検査結果などの診療情報から研究用の情報を作り出し、①手術の方法や治療計画に影響を与える要因、②術後の形態変化、③治療予後と評価項目との関連性を細かく検討することで、顎顔面領域における外科手術の新しい技法や材料の開発、治療計画に結びつけることを試みます。

#### ＜研究の方法＞

過去の診療において得られた情報（一次情報）を診断用または研究用ソフトウェアに入力して新たな研究用情報（二次情報）を算出し、統計処理によって治療の予後に関連する要因を見つけ出します。

#### ＜研究期間＞

倫理委員会承認後 ～ 2027年5月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究に用いる具体的な一次情報は、手術前後に実施したレントゲン撮影やMRI撮影などによる画像情報、血液検査データ、性別や年齢などです。二次情報も含め、すべての得られた情報は個人が識別できないような状態で保管します。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

#### ＜照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先＞

大阪大学大学院歯学研究科・口腔外科学第一教室・教授  
(大阪大学歯学部附属病院・口腔外科1〈制御系〉・診療科長)

研究代表者：田中 晋

住所：大阪府吹田市山田丘 1-8

連絡先：06-6879-2358（口腔外科 外来）